



富士森

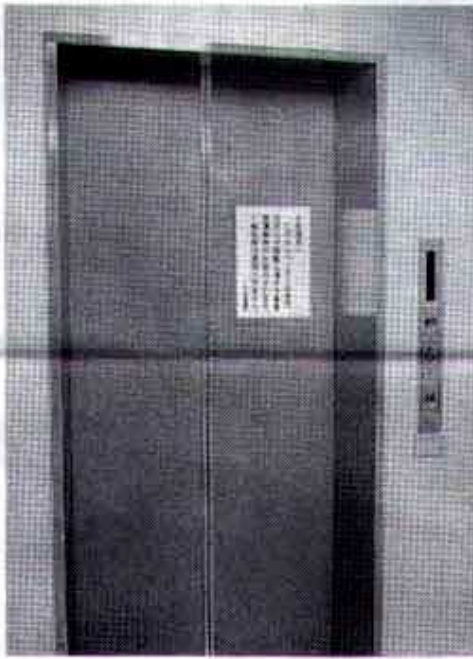
約17億円
と

2年をかけて大規模改修 母校リニューアル

昭和三十八年に竣工した鉄筋校舎の耐震性に問題ありと診断されました。約十七億円の事業費と二年の月日をかけた工事が、このほど完工しました。大規模改修を終えた母校の見所をいくつかご紹介します。

母校の面積は、約三万二千六百平方メートル。都立高校の平均面積、約二万一千平方メートルの一・五倍もある広い敷地にゆったりと校舎が建てられています。グラウンドも都平均の約二・四倍もあります。昭和三十

▶重い荷物の運搬やけが人が出た時にも



▲全天候型の多目的コートで練習に汗をかく

年に建設されたB棟の耐震性に問題ありとされました。そこで、校舎の耐震性を向上させるとともにバリアフリー化などを含め全面的な大改修が行われることとなりました。しかし、授業や学校行事を行いながらの工事となるため、工期を二回に分け、平成十一年度から二カ年計画で実施し



▲ガッツリと入った筋交い

てきたものです。その間に事務室や職員室は、二度も場所が変わったほか、校庭の片隅にプレハブの仮設教室を設けるなど、引越しも都合四回となりました。

エレベーターも設置

改修工事は、B棟の基礎部分や柱を補強し、鉄骨の筋交いを入れるなどの耐震工事とA棟の内装工事からなっています。事業費も建物工事のほか、冷暖房設備や電気、給排水設備、外構工事などで概ね十七億円の費用がかかりました。また、体に障害を持つ方のためのエレベーターやトイレが設



▲整然と置かれた通学用自転車

今号の内容

- 1ページ 大規模改修でリニューアル
- 2ページ 新旧校長挨拶
- 3ページ 制服リサイクル・12年度事業、決算報告ほか
- 4ページ クラス会だより

同窓会の皆様へ

学校長 佐藤 公作

長い歴史と伝統のある富士森高等学校に、後藤英照校長の後任として着任しました。前任校は、青梅東高等学校（教頭）です。学校は、その置かれていた環境によって校風・特色は様々です。本校の良さは、一言で言えば「環境のよさ」と感じてお

ります。まず、意欲・情熱・活力にあふれる教職員・人的な環境、それに広く・静か・美しい自然な環境です。日ごろ校舎の内外を歩き回っていますと、生徒は、休み時間には先生と親しく話し、放課後には部活動の激しい指導にも真剣な眼差しで素直に応じています。こうした先生と生徒の深い関わり合いが本校での安定した学校生活の基礎になっていると感じておりま



▶第十六代校長 佐藤公作先生

す。また、校舎は、ゆつたりとした流れの浅川と桜並木の傍らにどっしりとたたずみ、奥多摩や秩父の広大な山並みに包まれています。この豊かな環境が生徒の学校生活に潤いを与えているせいも、生徒はおおらかに、ゆとりのある生活を楽しんでいるようです。

本校は、昭和十六年に八王子市立高等女学校として創立された地域のご支援をいただきながら六十周年を迎えました。また、この三月には、二年がかりでの大規模改修工事も完了し、皆様が通った学舎から変身し、文字どおり「新しい学校」として出発することができました。機会がございましたら是非ご覧下さいませようお願いします。十一月十七日（土）には、改修工事落成記念を兼ね、周年行事を予定しています。

本校で意欲的に学び、誇りをもって社会に果立っていった同窓生は、実に一万六千人近くに及び、国内ばかりでなく、国際社会においても活躍しておられます。これは、現在ここに教えるもの、学ぶものにとりましても、誠に心強いこととであります。さて、生徒を取り巻く社会環境は、ますます深刻

化しています。これらに対して学校が対応し、解決していくには学校や保護者の個々の力では解決できません。教師や保護者、生徒、地域や同窓の方々が互いに協力をしあひ、率直に語り合う場、さらには協力や支援が欠かせないものです。生徒たちの大切な三年間を意義あるものにするために、本校の教育活動に期待しています。教職員一同、将来の教育の方向を展望し、心を一つにして皆様のあとに続く人材育成に微力を注ぎ、活力ある教育活動に専念する所存です。



前校長 後藤 英照

富士森高校の同窓生の皆様。母校フジモリのことを心にかけていただきありがとうございます。平成十三年、西暦二〇〇一年という年は、富士森高校にとりまして、まさに記念すべき年となりました。前回の会報でお知らせしましたとおり、東側道路沿いの旧校舎は、耐震性に問題があると指摘されておりました。これは、生徒の安全にかかわることです。校長として最大の懸案のひとつであり、平成十一年度より開始したこのたびの工

事も、本年三月をもって完工を迎え、去る三月十一日の卒業式は、塗装の香りも漂う新装の体育館で挙行することができました。そして、新たに二百七十五名の生徒が同窓会のお仲間に入れていただくことになりました。よろしくご指導をお願い申し上げます。

さて、私事になりますが、私は、三月末日をもって定年を迎えました。三十八年間の教職生活にいったん区切りをつけ、四月からは東京都教育委員会の嘱託員として、水道橋にある都立工業高校の広報室に勤務しております。明治四十年創立の重みを何かにつけて感じます。同窓会の組織もしっかりしていて、学校の連携も緊密です。近々、昭和十年の卒業生の同期会が行

今から六十数年前、織維関係が基幹産業であった八王子市では、女性の高等普通教育への関心が高まり、高等女学校に入学を志望する女性が増える情勢でした。しかし、市内には東京府立第四高等女学校（現在の東京都立南多摩高等学校）と「開校。歴史の変遷から迎える十年後、二十年後の未来に向けて、更なる母校の発展に同窓会として寄与してゆく所存です。」

わたる予定です。その行事のプログラムの一部として、校舎の見学会が計画されています。私も広報係がご案内することにしております。学校を去って六十余年。今もって母校を思う気持ちに感動いたしました。

富士森高校も昭和十六年、市内天神町に市立高等女学校として開校して以来、はや六十年が経過いたしました。本年秋には、大規模改修工事の完了と創立六十周年を祝う行事を計画しております。その際は、同窓会の皆様、同窓会の皆様、の力強いご支援をお願いいたします。

立高等女学校設置が議決され、あるとともに、大規模な校舎の文部省に申請されました。昭和十六年二月十四日に認可を受け、いよいよ新学舎を迎えた年でもあり、同年四月に「八王子市立高等女学校」が抱えている様々な状況を真正面から見つめ、理解を深めてゆきたいと思っております。

母校の発展に寄与

同窓会会長 原 喜久治

そして、これから迎える十年後、二十年後の未来に向けて、更なる母校の発展に同窓会として寄与してゆく所存です。



▲第十五代校長 後藤英照先生

制服大人気

富士森高校といえはセーラー服と学生服。この制服が廃止されたのが、昭和四十六年のこと。一時期、私服による通学とになりました

三年間毎日着た制服も卒業してしまえば邪魔な物。懐かしさを感じるのには、卒業からしばらくしてからのことです。成長期の子どもたちにとって、入学時に選んだ制服もすぐに着られなく

なり、卒業までにもう一着読えることになりません。それほど傷んでいない制服をすぐに捨てるには忍びないため、しばらくはタンスに入れるものの、結局はゴミになってしまいます。そこで、制服検討委員会では、この

点に着目。地球環境にやさしい制服、環境意識を育てる制服を検討し、ペットボトル再生繊維を使ったポロシャツや回収してリサイクルができる制服の採用



冬服（正装）



夏服（半袖シャツ・薄地のズボン・スカート）

平成十二年度事業報告と決算報告

事業報告

- 四月十一日……入学式に来賓として出席。
- 九月十六・十七日 文化祭で同窓会ルームを開設。ホットコーナーのほか、簡単な七宝教室を開催し、参加者の実費負担分と、PTAの小物売上代金とあわせ

- て、四万七千三百円を読売新聞社を通じて「伊豆諸島噴火地震救援募金」に寄付。
- 十月二十六日 小石京子さんの協力で都立秋川高校で避難生活をしている三宅局の子へも七宝教室を開催。
- 三月九日 卒業式に来賓として出席、皆勤賞を授与。

決算報告

● 収入の部 (単位：円)

科目	金額	摘要
前年度繰越金	22,023,434	
同窓会費	2,750,000	275名×1万円
雑収入	24,305	銀行利息
計	24,797,739	

● 支出の部 (単位：円)

科目	金額	摘要
運営費	139,923	会議費、事務所費
通信費	630	通信費
祝い金	290,814	卒業記念品代等
文化祭費	215,686	会場装飾代他
クラブ支援費	90,000	吹奏楽部定期演奏会会場費
繰越金	24,060,686	
計	24,797,739	

クラブ活動を支援

母校には、野球部や吹奏楽部をはじめ部やサークル、同好会が約四十団体もあり、毎日練習に励んでいます。活動は、生徒会予算と学校予算から配分される経費で運営されています。しかし、昨今の厳しい都の財政事情から配分予

算が激減しました。必修のクラブ活動は廃止され、このままでは部活動の今後が心配です。同窓会では、厳しい環境でもがんばっている在校生の部活動を側面から支援するため、今年度から新たに「部活動支援費」を予算項目に加えました。具体的な支援策は、今後、生徒や部顧問の先生方と情報交換をしながら、もっとも望ましい内容を検討してゆきます。

十二名に皆勤賞授与

同窓会は、これまで卒業式に卒業証書を入れるホルダーと卒業生の胸を飾るコサージュをプレゼントしてきました。ここ数年、三年間無遅刻無欠席の生徒が増えてきたことから、平成九年度卒業生から皆勤賞を提供してきまし

た。昨年までは卒業式の子行練習時に授与してきましたが、練習中の授与ではあまり感慨もありませんでした。平成十二年度の卒業生から三年担任の先生方のご尽力で卒業式終了後、保護者や在校生の見守るなかで授与することができました。卒業生の顔も誇らしげに輝いていました。

学校運営連絡協議会委員に原会長が就任

生徒の健やかな成長を促すために、地域と一体となった特色ある教育活動が大切です。地域や社会に開かれた学校づくりを目指して、この四

月から「学校運営連絡協議会」が設置されました。外部委員として近隣の中学校長やPTA会長とともに同窓会長が委員に就任。また、学識経験者として同窓生で八王子市教育長を務められた田中博氏も委員に就任しました。

クリスマス会をよび

「3B会」母校を訪ねて

昭和三十三年卒業
三年B組同窓会

甲州街道の銀杏も色づき始めた平成九年十一月三日。「3B会」の小父さん・小母さんは足取りも軽く三十八年ぶりの母校を目指しました。朝から抜けるような青空に、心は「セーラー服」で通ったお下り髪と「詰襟」

です。南浅川の土手に上がると正面にあの懐かしい白百合の校章が目飛び込んできて、みんな感嘆の声があがり、続いて時の流れをしみじみと感じた一瞬でもありました。もうかつての面影はありません。正門も校舎の並びも。橋の下の遊歩道では市民マラソンのランナーが息を切って通り抜けて行きます。学校をバックに「チーズ」で十



七ショット。玄関では同窓会事務局の遠藤さんの出迎えと丁寧な案内の案内をいただき有り難うございました。「パソコン教室」「しし教室」と、ワープロで四苦八苦しているオジサンたちとは隔絶の隔たりです。

ご入学は、台町のまさに「富士森（現在の市民プール）」でした。二年生の秋に現在地へ！さらに鉄筋校舎に移転して一年半、学窓を後にして三十八年ぶりに同窓会として訪問させていただけました。スキップでもしたくなるような小春日和のなかをそれぞれの思いを胸に南浅川の芝生の堤防沿いに明日の腰の痛みも何のその、昭和天皇が眠る武蔵御陵へ。午後の陽に高尾の山並みも薄く煙った「高校三年生」の秋の一日でした。

※早くに原稿をいただいたおりましたが、会報発行が遅くなり大変申し訳ありませんでした。

昭和三十三年三月卒同窓会

久しぶりの開催で

大にぎわい

思えば、今は無き台町校舎で

終ホールを有終の美で飾りたく思案していると考えます。そこで、私たちは還暦を記念し、土方歳さんを中心に首題を着々と準備してまいります。

変わらぬ昔の友と旧交を温めるチャンスです。お世話になった恩師もお招きします。同期生多数の参加をお待ちしています。詳細は、後日お手紙でご案内いたします。なお、本会の名称を考えています。当日、ご提案ください。

日時 平成十三年九月二日
(日) 正午～午後三時
会場 JR八王子駅前 京王プラザホテル八王子

同窓会総会のお知らせ

5年ぶりに総会を開催します。その間に母校は「耐震建物」に改装されました。新装なった学校をご案内します。ぜひ、同窓生お誘いあわせの上ご出席ください。

記

日時：平成13年9月22日(土)午後1時～4時30分
会場：都立富士森高等学校多目的ホール(4階)
内容：総会・学校案内・懇親会・吹奏楽部ほかアトラクション
会費：3,000円
新入会員(平成13年3月卒業生)と還暦会員(昭和35年3月卒業生)は、1,000円

幹事 山崎・小石

の最後の卒業生となってからもう四十四年が過ぎました。前回同期会を行ったときに、今回は還暦の年に開きましようとする約束をしました。でも、幹事がそれぞれに忙しく、なかなか開催することができないまま時間だけが過ぎてしまいました。でも、市立高等女学校創立から六十周年を迎える今年、どうにか責任を果たすことができました。

同期会当日は、参議院選挙の投票日にもかかわらず多くの同期生にご参加いただき、幹事一同感激しています。これからは皆さんのお約束をきちんと守り、毎年同期会を開催したいと思っています。今年はいろいろなご事情で参加できなかった同期生の皆様。今後とも継続して開催いたします。ぜひご参加ください。幹事を引き受けてもいというかたは、現幹事までご連絡ください。

文化祭ホットコーナー

今年の文化祭は、九月十五・十六日の両日です。毎年、同窓会では、大会議室を会場にホットコーナーを開設しています。会場では、入れたてのコーヒーをはじめ、お菓子や清涼飲料水などを用意して、皆さんのご来校をお待ちしています。会場では母校の変遷を伝える写真パネルやセ



ラー服や学生服、標準服、新しい制服の展示、様々な行事を撮影したビデオ放映などを行っています。また、同窓生の小石京子さんを講師に簡単な七宝焼教室も随時に開催しています。

六十周年記念行事

十一月十七日(土)に母校で

昭和十六年二月十四日に東京府八王子市立高等女学校として認可されてから今年で六十年。人間でいえば還暦にあたります。また、平成十一年から二ヶ年をかけた大規模改修工事も完工したこと、

今回は、新装なった母校を案内した後、記念式典などを執り行う予定です。

同窓会としては、PTAやPTAOB会の皆さん、定時制の役員さんたちとともに周年行事に積極的に参加してゆきます。今後、会員の皆さんには名簿の調整やご購入、公告の掲載などご協力をお願いいたします。

編集後記

出そう出そうと思っているうちに、ここまで来てしまいました。出せなかった言い訳はたくさんあるのですが、言い訳を言っても出せなかったことは出せなかったのです。誰か悪いのでもありません。でも、どうにか発行にこぎつけることができました。原稿をお寄せくださった皆様にあらためて感謝いたします。

さて、今年には母校創立60周年の年。ひとつの区切りの年でもあります。これまでの10年間を振り返り、これからの10年間を展望する年です。一度立ち止まって自分を見つめ直す年でもあります。母校にかこつけて自分に対する自戒の言葉でもあります。